

生活科 第1学年 『はっぱのいろがかわったよ』

授業者 太田市立宝泉小学校 高橋 歩

野村 千栄

1,本時のねらい

春や夏との違いに気づき、秋という季節の特徴である木の実や落ち葉を生かした遊びを考える。

2,視聴覚機器の位置づけ

VTRを使うことにより、過ぎてしまった季節の特徴を数多く思い出しやすくした。また、春、夏、秋と同じ公園の季節の変化を視覚的にも捉えやすいようにした。

OHCを使うことにより、児童の秋のものを使って作りたいものを言葉だけでなく、映像ではっきりと全員に見せることができる。映像で見せることにより、作りたいものが具体的に他の児童に伝わり、秋のものを生かしている点、工夫されている点を話し合うのに有効であると考えた。

3,授業の概要

(1)つかむ段階

季節ごとの公園の様子をつかむために、生活科の授業で春、夏、秋に公園で遊んだ際に撮影したビデオを全員で視聴した。

児童はビデオを見ながら、それぞれの季節ごとの様子を、ビデオを見ながら想起していたのか、口々に「あっ、あんなものを拾ったよね。」とか「あんな遊びをしたね。」とか「これは夏の様子だよ。」などつぶやいていた。

その後、それぞれの季節の出来事を撮影し拡大した写真や実物の木の実や落ち葉を、季節ごとに黒板に掲示し、学級全体で春や夏の遊びや秋の特徴を確認しあった。そして、このあとに行われる製作活動に生かしていこうとする気持ち



ちを持たせていた。

(2)はたらきかける段階

ビデオを視聴したり写真や実物を掲示して季節ごとの特徴を確認したりした後、児童が自分自身でやってみたい木の実や落ち葉を使った遊ぶ道具を考え、カードに絵や言葉で書く学習に入った。

自分自身で何を作ったら良いのかが思い浮かばない児童に対しては、教師が参考例をあげたり教科書・参考図書を見るように助言したりして、児童の発想が広がるようなきめ細かな支援を行っていた。

児童は豊かな発想を生かして、黒板に掲示してある写真や実物を見たり友だちと相談したりしながら、思い思いの作品作りの構想を練り上げていた。そしてその後、自分が考えた作品を友だち同士で見合い、教え合いを通して相互交流をし、児童がさらに工夫できるようにした。

(3)まとめる段階

最後に、児童が考えた遊び道具が表現されたカードをOHC(簡易教材提示装置)を使用してテレビモニターに投影し発表した。

それぞれの児童が考えた構想の良いところや工夫されているところなどを学級全体で話し合い、次時以降の製作活動に生かしていけるようにしていた。本時の学習で児童の自然と自分・自分と友だちとの関係が深まってきたと感じた。本時の授業は、教育機器を効果的に活用した授業であったと感じた。

